

県内取組事例

宮崎県内の取組事例を紹介します。

(1) IoTセンサーとクラウドシステムを融合し、養鶏事業のDX事業に着手

IoT クラウド



タンク内の飼料残をセンサーで可視化&飼料発注・配送管理は全てクラウドで管理し一元化を実現

事業者：株式会社LCトランス（宮崎県都城市）
立ち位置：

- 取組概要：**
- ① 飼料タンクの内蓋にIoTセンサーを取り付けし、残量を可視化
 - ② 農家は飼料残量をクラウドシステムで確認し、その導線で飼料発注を行う
 - ③ LCトランスでは農家の飼料状況を一覧で可視化し、飼料残が少ないタンクからはアラートで気づきを与える
 - ④ LCトランスからエビス商事へ販売データをAPIで連携し人的作業を最大限排除
 - ⑤ 飼料残から導き出した食下量を数値・グラフで可視化

〈主な取組〉

- ① 飼料残量可視化を目的にIoTセンサー「Milfee」を採用
養鶏農家の飼料タンク50基に対しセンサーを取り付け、農家毎にクラウド環境を用意し、タンク毎に飼料残を可視化



- ② 飼料受発注&配送管理をクラウド上で管理
溜まったデータは数値化、グラフ化でより分かりやすく展開

飼料受発注	品名	単位	計	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	鶏七五	北七五	kg	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2	鶏七五	北七五	kg	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3	鶏七五	北七五	kg	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
4	鶏七五	北七五	kg	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5	鶏七五	北七五	kg	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
6	鶏七五	北七五	kg	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
7	鶏七五	北七五	kg	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
8	鶏七五	北七五	kg	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
9	鶏七五	北七五	kg	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00



取組を始めた背景：

- 飼料・配送事業に関わる業務において、アナログ業務が散在
- 配送・農家・インテグレーターが個別に管理しており、統一性が無い
- 売上に直結する対策も直感や経験則から弾いている
- ➡ 個々に管理している情報を一元化する事で、それぞれの業務に一貫性を持たせることができ、無駄な作業・無駄なやり取りを排除する。同時に、業務の時短化にも繋がり、質の高い養鶏事業に取り組むことが出来ると考えた。

効果（成果）と今後の課題：

- (効果・成果)
- ・ 農家・・・飼料残可視化にて餌の枯渇が無くなった&飼料確認の為の高所作業や真夏・真冬・台風時などの確認も容易になった
 - ・ LC・・・デジタルでの飼料発注となり業務が短縮、オーダーミスも排除農家の飼料情報を全体で俯瞰的に見れるようになった結果、事前に対策も打てるようになった
 - ・ エビス・・・餌食いの状況が数値とグラフで見れ、栄養剤や添加剤投入のタイミングなどを判断する基準が作れた

(今後の課題・将来性)

- 今回から取得できるようになったデータをどのように活かすかが重要となる
- ① 飼料×AI：蓄積データを元にした提案型の最適飼料の発信
 - ② 配車×予測：餌残量や育成状況を予測し、次回配送先を提案する仕組み
 - ③ 体重×AI：蓄積データから出荷体重を自動で予測する
- 様々な知識や新技術との融合で、より高い水準での生産性安定化に繋がりたい